

# 中華人民共和國北京市海澱区方言の 比喩語について

栞 竹民

はじめに

1. 調査地の概要；海澱区は北京市内区のはずれにあって、郊外区に接している。50万人以上の人口があり、大学関係者が多く住む大学町である。元来、農業地域であったが、1950年代から次第に文化施設が建てられるようになり、消費都市としての性格を併せ持つに至った。
2. 調査年月日；平成5年3月25日
3. 教示者；栞 竹民（1952年11月23日生まれ、男）
4. 調査者・調査場所；栞 竹民・自宅
5. 調査方法；配布の調査票に基づいて、主に内省により記述した。さらに、教示者の回答を補うかたちで、蘇 順 舛 氏（調査者の妻）に問い聞きを行った。

## I 自然現象

- 1 日照り雨 ○晴 天 雨（晴れた日の雨）、晴 天 漏（雨漏りするように  
晴れた空から雨が降る）
- 2 入道雲 ○積 雨 云（雨を積み集める雲）
- 3 旋風 ○旋 風（旋風）・小 旋 風（弱い旋風）・大 旋 風（強い旋風）  
（旋風は強くてはやいイメージとして捉えられて、人に「一旋風」という渾名を付けられることもある。）
- 4 霜柱 ○霜 錐（霜の錐）
- 5 つらら ○冰 錐 子（氷の錐）・冰 柱 儿（氷の柱）  
冰 溜 子（氷のたまり）
- 6 北斗七星 ○勺 星（杓子の形をする星）・北 斗（星）（北斗（星））  
（方角を示す星として捉えられている）
- 7 昂 ○七 姊 妹 星 团（七人女兄弟星团）・昂 宿（昂宿）
- 8 流れ星 ○流 星（流れ星）・賊 星（賊の星）（こそこそとはやいの意か）

## II 動物

- 9 かわはぎ ○猴 皮 魚（消しゴム魚）・扒 皮 魚（皮はぎ魚）  
（「かわはぎの皮が消しゴムの如し」の意か）
- 10 ひらめ ○比 目 魚（ひらめ）・偏 口 魚（口の偏る魚）
- 11 ひきがえる ○癞 蛤 蟆（癞の付く蛙）・疥 毒 [少]（ひぜん毒）  
例：疥 毒 一 打 一 鼓（ひきがえるをたたくとすぐそのお腹が膨らむ）

- 12 青大将 ○ 黑眉錦蛇 (くろまゆ錦の蛇) ・ 黃頰蛇 (黄色いあごの蛇)  
 13 とかげ ○ 四脚蛇 (四本足の蛇)  
 14 かまきり ○ 刀螂 (刀螂「両前足が刀のような形をする」の意)  
 15 みずすまし ○ 水鳖子 (水子「かめのような形をする」の意)  
 16 きつつき ○ 啄木鳥 ・ 樹(森林)的医生 (樹(森林)の医者)  
 17 せきれい ○ 鵓 (せきれい) ・ 白臉鵓 (白顔のせきれい)  
 18 ふくろう ○ 猫頭鷹 (猫の頭をする鷹) ・ 夜猫子 (夜間の猫)  
 (ふくろうの夜間活動という習性を把握して、夜型の間を「夜猫子」と喩える)

### III <植物>

- 19 馬鈴薯 ○ 土豆 (儿) (土の豆)  
 (馬鈴薯の丸っこい形と土の中に生えるということから「土豆」と名付けられたであろう。但し、日本では一般として「豆」と言えば、豆のような形の小さいものと想起しやすいが、馬鈴薯のような大きさのものはまずは「豆」といわないであろうと思われる。)  
 20 とうもろこし  
 ○ 玉米 (玉の米) ・ 老玉米 ・ 棒子 (棒子「棒のような形をする」の意)  
 (「老」は接頭辞として用いられ、特にある種の名詞と結合すると実質的意味を伴わず、単なる造語要素となる。例えば、老倭瓜 (かぼちゃ)、老鷹 (鷹)、老虎 (とら) 等が挙げられる。)  
 (日本では「とうもろこし」と言えば、黄色と思われるが、中国では黄色のとうもろこしの他に白いのもある。殊に北方ではとうもろこしが小麦と共に主食となった時もあった。だから、とうもろこしの呼び名はもとより、その食べ方と食べ方に応じる加工法も多様である。これは米を主食とする日本と異なる。)  
 21 いんげん豆 ○ 豆角 (豆のさや) ・ 扁豆 (扁平の豆) ・ 架豆 [稀] (架豆  
 「架(たな・ささえ)の豆」の意。(いんげん豆がたなに依って育つことから「架豆」と命名されたであろう。)  
 22 そら豆 ○ 蚕豆 (蚕豆)  
 23 木くらげ ○ 木耳 (木の耳) ・ 黑木耳 (黒い木の耳) ・ 白木耳 (白い木の耳)  
 24 びんのしょうし  
 ○ 犊牛儿苗 (黒・白まだらの牛の苗) ・ 太陽花 (太陽の花)  
 25 どくだみ ○ 魚腥草 (魚の生くさいにおいがする草)

- 26 いたどり ○虎 仗 (虎仗)   
 27 からすうり ○土 瓜 (土の瓜)   
 28 すみれ ○紫 花 地 丁 ・ 地 丁   
 29 春蘭 ○蘭 草 (草蘭) (蘭の草) ・ 山 蘭 (山の蘭)   
 30 母子草 ○鼠 曲 草 (曲がるねずみ草) (これは「ネコノミミ」と対照的である)   
 佛 耳 草 (佛の耳の草)   
 31 ねむの木 ○合 歡 (樹) (合わせて飲む) ・ 馬 櫻 花 (馬のふさの花)

(「ねむの木」の葉は羽状複葉で、多くの小葉から成り、刀形で昼間に開き、夜間に閉じるという習性である。その夜間に對となる小葉が閉じることを男女が抱き合って飲むようにと捉えて、「合歡」と名付けられたであろう。)

#### IV (性向)

- 32 熱しやすく冷めやすい人   
 ○忽 冷 忽 熱 (de rén) (忽ち冷め、また忽ち熱くなる(人))   
 熱 得 快 凉 得 快 (de rén) (熱しやすく冷めやすい人)   
 33 あわてん坊 ○冒 失 鬼 (あわて鬼) ・ 毛 躁 神 (鬼) (あわて神(鬼))   
 毛 手 毛 脚 (de rén) (毛「そそっかしい、おちつきがない」   
 の意) ・ 毛 頭 毛 腦 (de rén) (毛「同上」の意)

(中国語では、「鬼」は亡霊だけではなく、他の語と結合して接尾辞的な働きをし、大人に対して蔑称として、子供に対して愛称として応用される。)

##### 【大人に対しての蔑称】

吝 嗇 鬼 (けちんぼう)    怕 死 鬼 (おくびょう)    酒 鬼 (飲んべえ)   
 烟 鬼 (ヘビースモーカー)

##### 【子供に対しての愛称】

机 盤 鬼 (おりこうさん)    (小) 淘 气 鬼 (いたずらっこ)

- 34 動作の鈍い人   
 ○磨 蹭 鬼 (のろい鬼) ・ 蜗 牛 走 路 → 慢 々 騰 々 (蝸   
 牛の歩き→のろのろ)

(中国語には慣用表現(ことわざ、成語)の他に上の「蝸牛走路→慢々騰々」というような「歇后語」も存する。特に人間の「性向」を表すのに多用されるように思われる。「歇后語」というものはなかなか説明し難いのであるが、日本に於いても本調査票に挙げられている「ウドンヤノカマ(湯だけ→言うだけ)」、「厠の火事→やけくそだ」、「薩摩守忠度→ただで乗る」なども「歇后語」と見てよいであろう。中国語の場合もこれと同様に、前半と後半に分かれている。ただ、日本では「歇后語」を集成した本が無いらしい。それに対して中国ではその使用が発達しており、その専門の本が何冊も上梓されている。これは独立語の中国語と厚着語の日本語という異同によるものであろう。

##### (1) 同音を利用したもの

小 葱 拌 豆 腐 (小ネギを豆腐に混ぜる) → 一 青 二 白

(一方は青、他方は白) → 一清 二白 (極めて明白、極めて潔白) の意となる。つまり「青」と「清」が同音 (qing) となる。

(2) 派生義を利用したもの、意味を敷衍したもの

gǒu xiān mén lián      zuǐ tiǎo zhe  
 狗 掀 門 帘 (犬が簾を掲げる) → 嘴 挑 着 (口で上げる) → 口先だけ

の二種類に大別できる。)

- 35 嘘つき ○ 瞎 話 篓 子 (嘘のかご) (篓子「竹などで編んだ物を入れる深い籠」)  
 huǎng huà xiān shēng  
 谎 话 先 生 (うそつき先生)
- 36 ほらふき ○ 牛 皮 匠 (牛皮の師匠) ・ 侃 爷 (ほらふきの爺)  
 chuī niú pí  
 吹 牛 皮 (牛皮を吹く)

(「牛皮匠」は「吹牛皮」から派生した表現である。「吹牛皮」は日本語の「ほらふき」と同じ発想法で出来た言い回しであると思われる。尚、「吹牛皮」はおそらく牛を屠るとき、牛皮に空気を吹き込むということから発生してきたであろう。そこで、ひどくほらふくときは「牛皮吹破了(牛皮を吹き破った)」と言われる。)

- 37 おしゃべり  
 huà xiá zi      huà lǒu zi      huà lǎo  
 ○ 話 匣 子 (ラジオ) ・ 話 篓 子 (話のかご) ・ 话 唠 (話の癆瘵)
- 38 冗談言い ○ 笑 星 (笑いのスター) ・ 玩 笑 大 王 (冗談言いの王様)  
 xiào xīng      wán xiào dà wáng

- 39 口先だけの人  
 gǒu xiān mén lián      zuǐ tiǎo zhe  
 ○ 狗 掀 門 帘 (犬がすだれを掲げる) → 嘴 挑 着 (口で上げる)  
 → 口先だけ  
 tiān qiáo de bǎ shì (xì)      guān shuō bú liàn  
 天 桥 的 把 式 (戲) (天橋の武芸者) → 光 說 不 練 (口  
 先ばかりで腕はたたぬ) → 口先だけ

(「天橋」は北京市前門の南側にあつて今の中国が出来る以前は大芸芸人の集まっていた場所である。この芸人達は、常々これから芸をみせるというそぶりはするのであるが、結局はあれこれ能書きを並べ立てるにすぎない。そこで「天橋的把式—光說不練」という歇后語が生まれたのである。)

- 40 とんちんかんなことを言う人  
 shuō huà diǎn sān dǎo sì (de rén)  
 ○ 說 話 顛 三 倒 四 (的 人) (三と四とをひっくりかえしたりする  
 ような話をする人)  
 shuō huà zǒng shì niú tóu bú duì mǎ zuǐ (de rén)  
 說 話 總 是 牛 頭 不 对 馬 嘴 (的 人) (牛の頭と馬の口  
 が互いに合わないような話をする人)

- 41 のらりくらり煮えきらない人  
 bù guǒ duàn de rén  
 ○ 不 果 断 的 人 (果断でない人)

- 42 怒りっぽい人  
 ài fā huǒ de rén      qì mén xīn  
 ○ 愛 發 火 的 人 (火が起こりやすい人) ・ 气 門 心 (自転車などのタ  
 イヤの空気入れバルブ) ・ 愛 生 气 的 人 (気が起こりやすい人)  
 ài shēng qì de rén

là yè shān shàn zi huǒ qì tài dà (火)  
 臘 月 扇 扇 子 (真冬の12月に扇子を使う) → 火 气 太 大 (火  
 氣 (怒気のこと) が大きい) → 怒りっばい人

43 気むらな人

zhāo sān mù sì de rén jiàn yì sī qiān de rén  
 ○朝 三 暮 四 的 人 (朝三暮四の人) ・ 見 異 思 遷 的 人 (異  
 を見れば変わろうとする人)

44 泣き虫 ○哭包儿 (泣きの包み) ・ 愛哭 (泣きがち)

(「包」は「包む」の以外に様々な意味用法を持っている。その中には「哭包儿」のように他の語と結合して、接尾辞的働きもして、人の顔口につかうものがある。つまりもともと事物に用いることから人間を表すのにも使用するようになる。日本語にはかような用法も見られない。

例えば、「淘 气 包 儿 (いたずらっこ)」、「醜 包 (くいしんぼう)」、「草 包 (能無し)」などが挙げられる。これらは包まれているものの中に入っている「なかみ」がすべてそのもの、という意味から派生したものであると考えられる。)

45 おてんば娘

jiǎ xiǎo zǐ  
 ○假 小 子 (にせの男の子)

ー (接尾辞「子」は算(切る)という動詞と結合して「剪子」(はさみ)となる。つまり動詞が名詞化できる働きである。それだけではなく、はじめから名詞である語に付いたり、「刀+子=刀子(刃物)」、形容詞に付いたり「楽(楽しい)+子=楽子(楽しいこと)」もできる。特に注目すべきことは、「厨(くりや)+子=厨子(コック)」、「花(使う)+子=花子(乞食)」、「(ばか)+子=子(あほう)」のように、名詞・動詞・形容詞について、これらを入るを表す語に変える働きもする。尚、多くは軽蔑の語感を伴ってくる。「瘦子(やせっばち)」、「胖子(でぶ)」、「秃子(禿げた人)」、「孝子(ものごと)」等が挙げられる。)

fēng yā tóu  
 瘋 丫 頭 (どうかしたかと思われるほど活発な女の子)

yě yā tóu  
 野 丫 頭 (野放図な女の子)

46 腕白坊主 ○淘 气 鬼 (気を争う鬼か) ・ 淘 气 包 (気を争う包か)

tiáo pí guǐ  
 調 皮 (脾) 鬼 (からかう脾(気性)の鬼か)

47 出しゃばり

chòu xiǎn de rén  
 ○臭 頭 的 人 (いやと言うほどでしゃばる人)

chòu xiǎn bái (bǎi pài pài)  
 臭 頭 白 (摆、排、派) (いやと言うほど故意に見せびらかす)

gǒu ná hào zǐ duō guǎn xián shì  
 狗 拿 耗 子 (犬が鼠に咬み付く) → 多 管 闲 事 (余計な事に

口を出す) → でしゃばり

(鼠に咬み付くのは猫の領分で犬としては自分の守備範囲ではないということから生まれた「歇后語」である。)

48 どこへでも顔を出す人

ài chū fēng tóu de rén  
 ○愛 出 風 頭 的 人 (風の頭に出やすい人)

xǐ huān pāo tóu lù miàn de rén  
 喜 欢 抛 头 露 面 的 人 (頭と面を見せびらかすのが好きな人)

49 家にこもって外出しない人

lǎo māo zài jiā lǐ de rén  
 ○老 猫 在 家 里 的 人 (猫のようにずっと家に籠もっている人)

dà mén bù chū èr mén bù mài de rén  
大門不出二門不邁的人(表門から外へは出ないし、二の門

から足を踏み出すことも無い人)

- 50 小心者 ○胆dan小xiao鬼gui(胆の小さい鬼)  
胆dan小xiao如ru鼠shu(de ren)  
胆小如鼠(鼠のように胆の小さい人)

- 51 内弁慶 ○窩wō里li横heng(家の中でいばる人)  
耗hao子zi扛kang枪qiang(鼠が鉄砲をかつぐ) → 窩wō里li横heng  
(穴洞の中でいばる)

→内弁慶

- 52 人づきあいをしない人・社交性のない人  
○乖guai僻pi的de人ren(偏屈な人)・怪guai僻pi的de人ren  
(偏屈な人)

- 53 妻に対して頭のアがらない男  
○怕pà老lao婆pō  
(女房をこわがる)(日本語の「恐妻」と一脈相通じる)  
气qi管guan炎yan - 妻qi管guan廠chan  
气管炎 - 妻管廠

(「妻管廠」「かかあ天下」のことを言う。これは海流区、乃至、北京市なら誰でも知っている掛けことばである。その由来は、「气管炎(気管支炎のこと)」をアクセントは違うが、同音の「妻管廠」に掛けていることからできた表現である。それで「他得了气管炎(彼は気管支炎になっている一恐妻家になっている)」とか、「他得了慢性气管炎(彼の気管支炎は慢性化している一恐妻が長く続いている)」とか言うてからかかったりすると、直接に「怕老婆(恐妻家)」を言うよりユーモラスである。)

- 54 けち ○抠kōu門men佬lǎo 儿er(門をさぐる意か)・小xiao气qi鬼gui(小気の鬼)  
吝lin嗟se鬼gui(吝の鬼)・守shou财cai奴nu  
吝嗟鬼(吝の鬼)・守財奴(財を守る奴隷か)  
瓷ci公gong鷄ji(瀬戸物のおんどり)・鉄tie仙xian鶴hao  
瓷公鷄(瀬戸物のおんどり)・鉄仙鶴(鉄の鶴)  
玻pe璃li耗hao子zi(ガラスの鼠)・琉liu璃li猫māo  
琉璃耗子(ガラスの鼠)・琉璃猫(るりの猫)

(「公鷄(おんどり)、仙鶴(つる)、耗子(ねずみ)、猫(ねこ)」はいずれも羽あるいは毛がついているが、「瓷(瀬戸物)、鉄(てつ)、琉璃(ガラス)、琉璃(るり)」となると、一本の羽も毛も抜くことができないことから、大変なけちんぼという意味が派生してきたと思われる。)

- 55 欲張り ○貪tān財cai鬼gui(財を貪ぼる鬼)・把ba家jia虎hu(er)  
(家を守る虎)  
雁yan過guo拔ba毛māo的de人ren  
雁過拔毛的人(飛びゆく雁の羽を抜くほど非常に貪婪な人)

## V 《食生活》

- 56 大食漢 ○大dà肚du漢han(でっかい腹の漢)・吃chi将jiang  
(喰大将)  
飯fàn桶tong  
飯桶(飯の桶)

- 57 ぼたもち ○小xiǎo豆dou餡xian糯nuo米mi糕gao

- 58 砂糖味が薄い  
○不bù甜tián  
(甘くない)

- 59 塩味が薄い  
○太tài淡dàn  
(味が薄い)

yán diàn guān mén le (塩店関門了) (塩屋が閉店してしまった) → quē yán (缺塩) (塩が足りない)

dǎ sǐ mài yán de le (打死賣塩的了) (塩屋をうち殺した) → tài xián (太咸) (塩辛い) と言う)

60 大酒飲み○酒筭 (酒かご、酒樽) ・海量 (海の量)

61 酒に酔ってくだをまく  
○酒酔説車轆轤話 (酒に酔ってぐるぐる回る車輪のようにくどくど話す)

62 酒に酔って顔が赤くなる、そのさま  
○紅臉 (紅顔) ・関公臉 (関羽の顔)

(『三国志』の関羽は顔が赤いということからできた言いかたであろう。)

## VI (動作・様態)

63 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま  
○臉上發燒 (顔が熱くなる) ・臉通紅 (顔が真っ赤である)  
臉上着火 (面火が着く)

64 どしゃ降りの雨  
○傾盆大雨 (盆を傾ける大雨) ・瓢泼大雨 (ひしゃくでまく大雨) ・瓢倒似的大雨 (水びしゃくでまくような大雨)

65 ずぶ濡れ、びしょ濡れになる、そのさま  
○落湯鷄 (湯に落ちる鶏)

66 服装がだらしないさま  
○邋遢・邋里邋遢

67 髭がのび放題なさま  
○胡子拉碴的 (ひげぼうぼう) ・不修边幅 (辺幅「布帛の端」の意から人の容貌、体裁という意味が生じる。)

68 厚化粧をしている人  
○油頭粉面 (油の頭おしろいの面) ・濃妆艳抹 (的人)

69 背丈の高い人  
○電線杆子 (電柱) ・長脖子 (頸) 鹿 (きりん)  
像個铁柱 (「铁柱」はかつて中国で最も高いバスケットボールの選手であった。)

70 出びたい○(大)斧儿頭 (斧の頭。「斧」は大工道具の一つで平鑿を大きくしたような身に直角に柄をつけた鋏形の斧—手斧であろう。)

例：bēr tóu wó kǒu yǎn chī fàn tiāo dà wǎn  
 餓 頭 窩 口 眼 吃 飯 挑 大 碗 (おでこで眼のくぼんだ人は食欲だ。)

71 汗がひたいから流れ落ちる

hàn liú rú yǔ  
 ○汗 流 如 雨 (汗が雨のように流れ落ちる)

72 目を丸くする

mù dèng kǒu dāi  
 ○目 瞪 口 呆 (目をむき、開いた口が塞がらない)・呆 若 木 鷄  
 (驚いて、木彫りの鶏のように呆気にとられる)・張 口 結 舌  
 (呆れて口が開いたままで、ものが言えないさま)

73 口をとがらす

juē zhe zuǐ  
 ○撅 着 嘴 (口を反り返らせる)・嘟 着 嘴 (口を突き出す)  
 zuǐ jiē dé néng guà yóu píng zǐ  
 嘴 撅 得 能 掛 油 瓶 子 (口を高くとがらせて、油入れの瓶をぶら下げることが出来るーひどく口をとがらすことをいう)

74 焦げ臭いにおい

fàn hú wēi r  
 ○飯 糊 味 儿 (ご飯が焦げた臭い)・布 糊 味 儿 (布の焦げた臭い)・胶 皮  
 hú chǒu wēi r  
 糊 臭 味 儿 (ゴムの焼けた臭い)・燎 毛 味 儿 (毛の焼けた臭い)

75 遠廻り(を)

rào dào (r)  
 ○绕 道 (儿) (廻り道)・rào wān lù  
 绕 弯 路 (曲がり道)・rào jiǎo  
 绕 脚 (廻り足)

76 末っ子 ○老 疙 瘩

(疙瘩「①おでき、はれもの、②わだかまり、悩み、③球形等の小さいもの」等の意。「老疙瘩」の「末っ子」は③の意味から派生したものであろう。)

lǎo ér zǐ  
 老 儿 子 (男性の末っ子)・lǎo yā tóu  
 老 丫 头 (女性の末っ子)

(日本語では「老」は年を取ることと接頭辞として年取ったものに冠するという語として用いられているが、中国語では、その他に多様多彩な意味用法を有する。例えば、上に列挙した「一番末っ子」を示す「老」は日本語には見られない意味である。亦、それと同じ発想法で生成した「最年少の」という意味も存する。「老叔(爹)(父の末弟)」、「老舅(母の末弟)」、「老姨(一番末の叔母(母の妹))」、「老姑(父の末妹)」等が挙げられる。「老」は日本語に入って本来の意味をそのまま継受しているが、中国では旺盛な生産性を発揮させており、日本語と意味用法に於いて顕著な差異を見せている。)

77 一生懸命頑張る

shǐ chū le chī nǚ de jīnr  
 ○使 出 了 吃 奶 的 劲 儿 (赤ん坊の時のお乳をすすする力まで出し切った)  
 wán mǐng gān  
 玩 儿 命 干 (命を軽く扱ってやる)

おわりに

●文化による相違点

「弁慶」は日本歴史上で有名な人物で、「内弁慶」「赤弁慶」という比喩表現が誕生し



た。日本の人物のためその表現が中国に見られないのは言うまでもないことであるが、その代わりに中国歴史上で著名な人物－「関公（関羽）」が登場して、「赤弁慶」のように比喩表現となっている。

亦、「北斗七星」に対して、両方とも「しゃくし」を使って比喩表現を生成させたが、「ハゴイタ」は日本独特のものであるため、当然なことながら中国には現れない比喩表現であろう。

#### ●食生活による相違点

当該方言の使用地域では、もち米の栽培、食用は殆どしないため、「ぼたもち」についての比喩表現が見られなかった。その代わりに「とうもろこし」はよく食べるので、多様な比喩語が出来ている。特に「とうもろこし」の「黄」と「白」との二色があるのは日本の常識を越えたことであろう。尚、その比喩法も差異を呈出している。当方言では「とうもろこし」の色と形に着眼して「玉米」、「棒子」と命名する。それに対して日本では「トーモロコシ」「トーキビ」「ナンマン」「ナンバ」等のように、その出所に注目して、比喩語を造ったのである。こういう渡来品の出所に注目して、比喩語を生産させることは「トーモロコシ」の他に「南京豆」「胡瓜」等も挙げられる。亦、「馬鈴薯」については、当該方言に於いては、その植生と形を捉えて、「土豆」という比喩語が生まれたが、日本では「イモ」が他の語と結合して「ーイモ」という形態として使用されている。いわばイモ類として認知されていることである。

(らん ちくみん 広島大学大学院)